

基礎知識を確実に習得し、 さまざまな問題に対応できる思考力と表現力を身につけます。

3年生の社会では、学校の授業を先取りし、教科書の内容をより深化させながら学習を進めていきます。体験学習で身近なできごとと社会科の学習を結びつけることで学習への興味・関心を高め、要点と映像授業で重要な事柄の理解を深めます。練習問題では基礎的な知識を確認する問題から中学入試で必要とされる思考力や表現力を要する問題まで幅広い演習をとって、入試の土台となる基礎力を築きます。

学習例：◎教科書レベルから入試の基礎レベルへの橋渡し

●体験授業

日常生活で体験していることは、社会科の学習にとっても深く関係しています。スーパーマーケットに買い物に行ったときに野菜や果物の産地に注目するという身近な体験から、日本の農業とグラフや地図の読み取りを学習していきます。

体験学習

2 生産量をグラフで表そう

りんごやみかんの生産量は、どのくらいあると思いますか。次の表を見てみましょう。

りんごの生産量が多い県	生産量	みかんの生産量が多い県	生産量
1 青森県	42万t	1 和歌山県	14万t
2 長野県	15万t	2 愛媛県	12万t
3 山形県	5万t	3 熊本県	9万t

1tは、1000kgのことだよ。

生産が多い県の順番は、表に1、2、3と書いてあるからわかりやすいね。

でも、それぞれの県の生産量は、数が書いてあるだけではわかりにくいよ。

目もりを使ってぼうの長さで表すと、生産量のちがいが一目でわかるわよ。これからいっしょにやってみよう。

① 上の「りんごの生産量が多い県」の表を見て、体験ノートのグラフをかきせよ。

② 上の「みかんの生産量が多い県」の表を見て体験ノートのグラフをかきせよ。

目もりを使って、数字をぼうの長さで表すグラフを「ぼうグラフ」といいます。ぼうグラフは、グラフに表したものの「りょう」や「ちがひ」が一目でわかりやすいというところがあります。

体験ノート

2 生産量をグラフで表そう

① タブレットの「りんごの生産量が多い県」の表を見ながら取り組みましょう。まず、グラフの点線をなぞって、グラフの中を色にぬって、グラフをかきせよ。

② タブレットの「みかんの生産量が多い県」の表を見ながら、下のグラフをかきせよ。

●体験ノート

体験授業で行ったことを実際に文字や図表にまとめることで、理解を深めます。

●図や写真を多用した要点で、視覚からの理解を深める

要点では、図や写真などの資料を効果的に用いることで理解を促し、社会科への興味・関心を引き起こします。図表の読み取りポイントを文章やガイド役のキャラクターがわかりやすく説明しているので、お子さまひとりでも確実に理解できます。そのため、自宅でもスムーズに先取り学習することができます。

要点

2 ぼうグラフと折れ線グラフのちがい

先生の授業を見る

自分で要点を読む

ぼうグラフと折れ線グラフには、次のようなちがいがあります。

ぼうグラフ …べつべつのことを、同じグラフでくらべるときに使います。

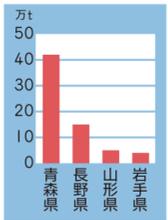
折れ線グラフ …同じことの変化の様子を見るときに使います。

ぼうグラフと折れ線グラフは、どのようなことを表すのにふさわしいか、見ていきましょう。

1 都道府県べつりんごの生産量

都道府県	青森県	長野県	山形県	岩手県
生産量	42万t	15万t	5万t	4万t

2017年産 農林水産統計



青森県と長野県など、べつべつのことをくらべるので、ぼうグラフを使います。

青森県と長野県をくらべるのは、変化ではないね。



2 青森県のりんごの生産量の変化

年	2014	2015	2016	2017
生産量	47万t	47万t	45万t	42万t

農林水産統計



一つのこの変化の様子を見るので、折れ線グラフを使います。

2014年から2017年までは、変化といえるね。



●要点の漢字練習（筆順アニメ）

中学入試では社会科の用語を漢字で書くことを求められることが多くあります。筆順アニメによって、学校ではまだ習っていない漢字も日々の学習の中で正しく書けるようになります。

漢字練習 3

※ペンツールを使うときは、画面の□をタップしましょう。ペンツールを使った後に次のページに進むときは、□をタップして、ペンツールを閉じてから進みましょう。

筆順

書き順

お手本を 表示する 表示しない

練習問題

●基礎知識の確認

要点で学習した内容を理解できているかを確認する問題です。

① 次の表をもっともふさわしい形でグラフ化したものを、下のア～エから1つずつえらび、記号を書きなさい。

2017年に生産されたもの	生産量	日本の米の生産量
なし	25万t	1990年 1050万t
ぶどう	18万t	2000年 949万t
もも	12万t	2010年 848万t



③ 次のグラフを見て、下の問いに答えなさい。



(1) 上のグラフを見て、日本でかわれる牛とぶたの頭数として正しいものを、次の□から1つずつえらび、下の表に書きなさい。

	かわれているぶたの頭数	かわれている牛の頭数
1998年	万頭	万頭
2008年	万頭	万頭
2018年	万頭	万頭

(2) 上のグラフからわかることを、次のア～カから2つえらび、記号を書きなさい。

- ア 2018年には、ぶたは牛の10倍いじょうの頭数がかわれている。
- イ 2018年には、牛はぶたの10倍いじょうの頭数がかわれている。
- ウ 1998年、2008年、2018年の中では、かわれている頭数はぶたも牛も1998年がいちばん多い。
- エ かわれている頭数は、ぶたも牛もふえつづけている。
- オ グラフから、かわれている牛の頭数の10年ごとの変化がわかる。
- カ グラフから、かわれている牛の頭数の10年ごとの変化はわからない。

□ □

タブレットで答え合わせをしよう。

●思考力を要する問題

要点で学習したことが中学入試ではどのように問われるのかを体得するために、入試問題に合わせた様々な出題形式の問題に取り組みます。また、社会科の学習で重要な資料の読み取り問題にも取り組むことで、入試で求められる思考力も身につけます。